

平成26年5月9日（金）
国土交通省関東地方整備局

記者発表資料

関東地方整備局事業評価監視委員会（平成26年度第1回）の開催結果について

関東地方整備局では、平成26年5月8日に、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、事業評価監視委員会を開催しましたので、審議結果をお知らせします。

- ・議事概要は、別紙1のとおりです。

※配付資料については、関東地方整備局ホームページでご覧下さい。

関東地方整備局ホームページ(<http://www.ktr.mlit.go.jp/>) →募集・情報公開→公共事業の評価

URLダイレクト入力の場合 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/index00000018.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、神奈川建設記者会
茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会
千葉県政記者会、東京都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 TEL. 048-601-3151（代表）

企画部技術企画官 まつやま 松山 おさむ 治（内線3126）

企画部 企画課 課長補佐 たかはし 高橋 いわお 岩夫（内線3153）

(別紙1)

関東地方整備局事業評価監視委員会 (平成26年度第1回)
議事概要

1. 日 時 平成26年5月8日(木) 16:00~18:00
2. 場 所 さいたま新都心合同庁舎2号館 14階 「災害対策本部室」
3. 出席者

[委員長]

家田 仁 (東京大学・政策研究大学院大学教授)

[委員]

池邊 このみ (千葉大学大学院園芸学研究科教授)

大野 栄治 (名城大学都市情報学部教授)

蟹澤 宏剛 (芝浦工業大学工学部建築工学科教授)

清水 義彦 (群馬大学理工学研究院教授)

鈴木 誠 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授)

堤 マサエ (敦賀市立看護大学教授)

若松 加寿江 (関東学院大学理工学部教授)

(敬称略、五十音順)

[関東地方整備局]

局長 深澤、副局長 池上、副局長 稗田、総務部長 青木、企画部長 石橋、
河川部長 泊、道路部長 後藤、用地部長 笹川、営繕部長 羽山 他

4. 議事概要

(1) 挨拶

- ・ 関東地方整備局長

(2) 審議

1) 平成26年度における審議の進め方等の説明

2) 再評価対象事業の概要説明

- ・ 関東地方整備局のダム事業1件の概要説明。

3) 審議

- ・ 平成26年度における審議の進め方等について、一部資料の修正を行うことで、事務局(案)に了承する。

- ・ 再評価対応方針(原案)の審議結果は、別紙2のとおり。

<評価対象事業>

事業名	重点案件	事業箇所名	事業主体	対応方針(原案)	審議結果
ダム	○	霞ヶ浦導水事業	関東地方整備局	継続	別紙2のとおり

○：特に重点的な審議を要する案件として選定された事業

霞ヶ浦導水事業に関する意見

霞ヶ浦導水事業の検証については、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき、水質浄化、新規利水、流水の正常な機能の維持の三つの目的について、複数の対策案の立案、概略評価による対策案の抽出、評価軸ごとの評価、目的別の総合評価の検討を行い、最終的に、検証対象ダムの総合的な評価が行われている。

検証に当たっては、関東地方整備局と関係地方公共団体において「霞ヶ浦導水事業の関係地方公共団体からなる検討の場」が平成 22 年 12 月 20 日に設置され、1 回の検討の場、6 回の幹事会が開催され、検討内容の認識を深めながら検討が進められていた。また、検証の過程では、パブリックコメントが実施され、さらに、流域住民からの意見募集、学識経験を有する者からの意見聴取が行われ、それらに対して総括的な回答がなされている。

以上のとおり、関東地方整備局による検討は、実施要領細目に沿って進められており、事業の効果並びに事業がもたらしうる環境影響に対する配慮と今後の継続的なモニタリング及び改善努力への意志、さらに既に事業が約 80%まで進捗しているという事実から判断して、事業評価監視委員会としては、霞ヶ浦導水事業は対応方針（原案）のとおり「継続」することが妥当であると考えます。